～さわやかな
笑顔
みどり学年～

明石市立二見中学校
71 回生
第 3 学年　学年通信
平成 30(2018)年 5 月 10 日（木）
ＮＯ．122

第３回道徳「元さんと二通の手紙」

今回の道徳は、市営動物園の模範的職員だった元さんが、幼い姉弟への同情心からきまりを破り、その結果、会社に解雇されてしまうという話を通して、きまりの意義や、きまりと公私のかかわり、自他の権利と義務について考えを深める内容でした。普段の学校生活や日常生活はもちろん、まもなく修学旅行があります。ルールやきまりを守ることの重要性を理解して、修学旅行を成功させ、学校生活や個人の成長へつなげてほしいと思います。

【生徒の感想より】

★　元さんの善意と動物園の規則。どちらも正しい事だと私は私は思います。子どもたちの思いを優先するか、安全を優先するかの違いだし、どちらを選んでも完璧な答えではない気がします。ただ、どれだけ良い事でも、ルールを破るといけない事になってしまうので、善と悪は紙一重だと実感しました。

★　法やきまりに違反してしまった時に、これは善意でしたことだから…これは悪意があってしたことだから…としていたら、法やきまりが存在する意味がないと思う。けれど、違反してしまったこと全てが、悪意があってしたことではないということを知っておくべきだと思った。

★　自分が良い事だと思って勝手な判断をすると、あとでとり返しのつかない事になってからでは遅いし、規則は皆が守らないといけない事だから、勝手な判断をせず、守る事はしっかり守らないといけないと思いました。

★　どんな決断が正しいのか、規則は当然守らなければならないが、それで小さな子どもの誕生日を悲しい日にしてしまうのか、どうすればよいのかというような、何があっても規則を貫き通すのか、人を笑顔にする仕事場で人を泣かすのか、どうすべきか考えるきっかけになりました。

★　その規則を守るべきか、人のためにっていう善意をつき通すか、ていうところをすごく考えることができました。でも、規則は一番大切だから、やっぱり自分のためにも守らなければならないと思いました。

★　人が喜ぶ顔を見る仕事で、ましてや子どもの笑顔が見れたので、「きまり」が大事だけど、人の笑顔は社会のルールでは大事じゃないけど、人として最も大切な事だと思った。人が喜ぶ姿を見て、人助けかきまりを守るか、自分はその場面がきたらどっちを優先するのかな？と思った。

★　私はこの文を読んで、情に流されて勝手な判断をしてはいけないと改めて思いました。確かにかわいそうだ、ちょっとくらいなら…、と思ってしまうのは、しかたがない事だと思います。でも、だからといって規則を破っていいことにはなりません。優しくすることと、規則を破ることは違います。

★　元さんのやったことは良いことかもしれないけど、規則を破るのはだめだと思います。でも、最後に元さんは「また新たな出発ができそうです」と言っているので、しっかり反省しているし、晴れ晴れとした顔だったので、元さんは本当に良い人なんだと思いました。

★　普段あまり考えなかったような、ルールを守らないとどうなるのかという、基本的なことを改めて考えさせられた。部活などでも活かしたいと思う。

★　元さんが姉弟たちの気持ちをくんで、入れてあげた優しさも、女の子が弟のために自分の貯めたお金で入園しようとしたことも、上司が規則を大切にすることも、すべて理解できて、とても複雑な気持ちになりました。でも、私は元さんが保護者として子どもと一緒に入れば、また結果が変わったかな、と思いました。

ルールを守るということ

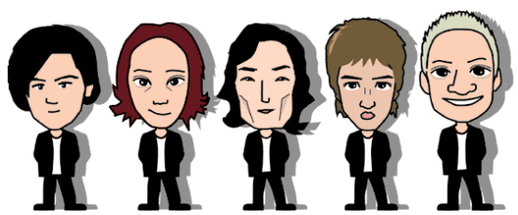
ルールを守るというのは、大人になるということです。そして、ルールを守ることは、謙虚さや素直さを育てることにもつながります。

元 SMAP の中居正広さんは、メモ魔で有名です。こんな風に言っております。

「ジャニーさんのひと言、ひと言を全部拾い上げたんです。ポイントしか言ってくれませんから、ひとつ言われたことを、死ぬほど覚えて勉強しました」

「上の人に従うっていうのは、小さいころの名残かもしれません。少年野球のときはチームの監督、バスケットをしていた中学生のときは顧問の先生、芸能界では社長（ジャニー喜多川）という感じで・・・」

エジソン、レオナルド・ダ・ヴィンチ、アインシュタイン、ニュートンといった天才と呼ばれた人たちもまた、メモ魔でした。メモをとるということもまた、謙虚さ素直さの表れではないでしょうか。

ルールや社会規範を守ることによって、人としての協調性や忍耐心が培われます。

その結果、人間的に成長することでしょう。